

神田川・環状七号線地下調節池の効果



神田川・環状七号線地下調節池

施設概要	全体計画	第一期	第二期
貯留量	54万m ³	24万m ³	30万m ³
トンネル延長	4.5km	2.0km	2.5km
トンネル内径	12.5m(土被り約40m)		
取水施設	2か所	神田川	善福寺川
事業費	約1,030億円	約540億円	※約490億円

※ 第二期事業は、新たなセグメント(合成セグメント)の採用により、建設コストの縮減を図った



○事業の概要・目的

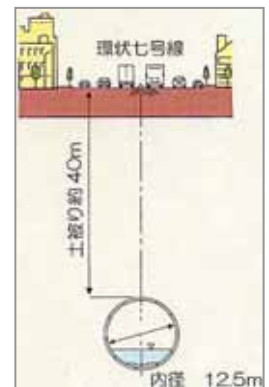
神田川・環状七号線地下調節池は、水害の多発する神田川中流域に将来計画している「環七地下河川」を先行的に整備し、当面これを調節池として利用するものです。トンネル規模が大きいことや、早期に事業効果を発揮させるため、第一期事業と第二期事業に分割して実施しています。

第一期事業は、平成9年度から供用開始し、現在、第二期事業を実施中です。

《シールドマシン》

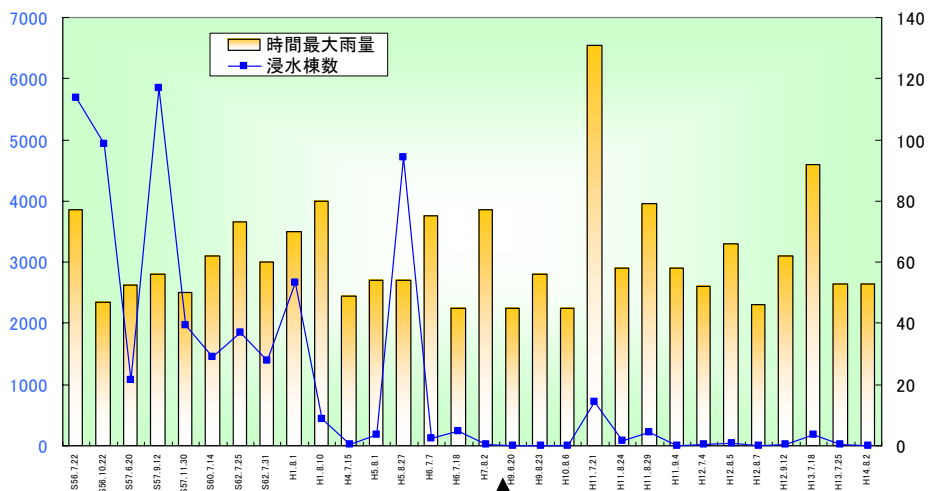


《調節池の内部》



【神田川における過去20年間の時間最大雨量と浸水棟数】

○時間最大雨量と浸水棟数をみると、神田川・環状七号線地下調節池(第一期)供用開始後の平成9年度以降、浸水棟数は明らかに減少し、整備の効果があつたことがわかります。



※○時間最大雨量45mm以上のみ表示
浸水棟数は溢水と内水による

神田川・環状七号線地下調節池(第一期)供用開始